

（宛先）新潟市長

所在地 新潟県新潟市西区坂井砂山 2-18-2
団体名 特定非営利活動法人みらいず works
代表者名 小見まいこ

実績報告書

令和 7 年 4 月 1 日付け新中地第 9 2 号の 2 で交付決定のあった下記提案事業について、新潟市まちづくりパートナーシップ事業補助金交付要綱第 2 1 条の規定により、関係書類を添えて次のとおり実績を報告します。

記

市の課題（テーマ）	提出した部署名	新潟市中央区地域課
	課題・テーマ名	こどもの権利保障の取組推進及び取組を通じた地域貢献ができる人材の育成
提案事業の名称	ファシリテーター育成を核としたこども若者の意見表明や社会参加を促す環境整備事業	
課題解決するまでの事業全体の 実施予定期間	令和 6 年 4 月 1 日から 令和 9 年 3 月 3 1 日まで	
交付決定額	交付決定額	1, 274, 000 円
事業実施内容	①こども意見表明ファシリテーター養成講座（10 月 22 日） ②こども意見表明ファシリテーター養成講座（10 月 25 日） ③意見表明ワークショップ（新潟市立白山小学校） ④意見表明ワークショップ（新潟市立山潟小学校） ⑤こども若者ミーティング（新潟市立山潟小学校） ⑥こども意見表明ファシリテーター養成講座募集チラシ作成 ⑦こども若者ミーティング地域住民参加募集チラシ作成 ⑧本事業最終報告チラシ作成	
添付書類	1 収支決算書 2 領収書又はその写し 3 その他必要な書類（事業チラシ、実施写真、図面等、実施状況がわかるもの）	

新潟市まちづくりパートナーシップ事業実施報告書

提案事業の名称	ファシリテーター育成を核としたこども若者の意見表明や社会参画を促す環境整備事業
1 事業の進捗について	
実施事業について こども若者の意見表明しやすい環境づくりを行い、社会参加を促すため、18歳以上を対象にしたこども意見表明ファシリテーター養成講座を実施する。また、中央区内の中学校・高校の生徒を対象にファシリテーションの基礎授業を行い、こども若者、大人と幅広い世代が意見表明しやすい場を創造していく。	
実施内容 ①こども意見表明ファシリテーター養成講座（全2回） 18歳以上の大人を対象にしたこども意見表明ファシリテーター養成講座を2回開催した。昨年度の参加者ニーズを踏まえ、同じ内容の講座を平日と休日で2回実施。参加者の参加しやすい日程で参加できるようにした。 参加者の属性は以下の通りである。 フリースクールの教職員、NPO法人、会社員、労働者協同組合職員、地域教育コーディネーター、子育てサロン主宰、学校教員など	
【第1回】 ■講座実施 日 時：2025年10月22日（水）13:30～16:00 会 場：山潟コミュニティハウス 講 師：NPO法人みらいず works 参加者数：9名（NPO法人みらいず works 職員は除く） 講座の様子：	
 	

【第2回】

■講座実施

日 時：2025 年 10 月 25 日（土）13:30～16:00

会 場：新潟県民会館 会議室

講 師：NPO 法人みらいず works

参 加 者数：8 名（NPO 法人みらいず works 職員は除く）

講座の様子：



■講座の感想

- ・ファシリテーター＝環境づくりという再認識が大きな学びになりました。どうしてもその瞬間だけ話し合いを仕切るというイメージがあったけど、そうではなく、何を指すのか、どんな環境をつくるのかしっかり考えて場をもつことが大切だと実感できました。
- ・ファシリテーションの基本について、改めて学べた。安心・安全で、楽しくて、子どもが自分ごととして考えられる場づくりがとても重要で、そのための準備も周到に行う必要がある事も学べた。
- ・なるべく自分の言葉を発せるような雰囲気づくりや質問を考えておいて、実際に誰かと話したりワークをしたり実践の機会にスムーズに使いたい。
- ・楽しく学べた事で、頭に入りやすく、工夫がたくさんあったので、時間があっという間に過ぎました。
- ・コミ協に防災士として参加しています。防災イベントを通して学校と地域のあいだを取り持てるよう、色々な場面で活用したいです。フリースクールの子どもたちの安全安心を、もっと意識して接したいと思います。

②モデル校に対するこども意見表明ワークショップの実施

今年度は、新潟市立白山小学校と新潟市立山潟小学校で授業を実施。ファシリテーションの基本を学ぶ授業を実施した。

【新潟市立白山小学校】

■打ち合わせの実施（４回）

- 日 時：・2025 年 4 月 15 日（火）教職員への事前説明
・2025 年 5 月 15 日（木）教員とのワークショップの事前打ち合わせ
・2025 年 8 月 26 日（火）教員とのこども若者ミーティングに向けた事前打ち合わせ
・2025 年 9 月 2 日（火）教員とのこども若者ミーティングに向けた事前打ち合わせ

■ワークショップの実施

日 時：2025 年 6 月 6 日（金）13:40～15:15

会 場：新潟市立白山小学校図書館

参 加 者数：34 名（第 6 学年児童）

講座の様子：



■講座の感想：

- ・普段の話し合いでは、なるほど！などの相槌をうったり、相手の意見を深掘りしたり、ノートに相手の意見をそのままにまとめたりなど学習したことを活かして話し合いをしたいです！
- ・授業でも日常生活でも話し合いをする機会があるのでそのような場面でこの授業を思い出して生かしていきたいです。
- ・今回習ったことを活かして、たくさん発言するようにしたいと思いました。また、あまり喋ったことのない人にも相槌を打つことを大事にして積極的に話しかけていきたいです。

【新潟市立山潟小学校】

■打ち合わせの実施（４回）

- 日 時：・2025 年 4 月 15 日（火）教職員への事前説明
・2025 年 5 月 20 日（火）教員とのワークショップの事前打ち合わせ
・2025 年 8 月 28 日（木）教員とこども若者ミーティングに向けた打ち合わせ
・2025 年 11 月 11 日（火）教員とこども若者ミーティングに向けた打ち合わせ

■ワークショップの実施

日 時：2025 年 6 月 13 日（金）8:55-10:30

会 場：新潟市立山潟小学校体育館

参 加 者数：75 名（第 5 学年児童）

講座の様子：



■講座の感想：

- ・友達と話す時や学校での話し合いで相手の意見を否定せず，自分とちがう意見でもそのまま受け取る。
- ・失敗はないから、勇気を出していうことができるようになりました。
- ・自分自身思ってることをはっきりと言えいいんだなということがわかりました。
- ・自然教室や授業の活動などの時間で、今回の授業で学んだことを生かして話し合いをする

③こども若者ミーティング(1回)

こども若者ミーティングを新潟市立山潟小学校にて実施した。

【新潟市立山潟小学校】

■講座実施

日 時：2025 年 12 月 4 日（木）10:45-12:20

会 場：新潟市立山潟小学校 体育館

参 加 者数：新潟市立山潟小学校児童 75 名、こども意見表明ファシリテーター受講者 8 名、
山潟地区 8 名（計 16 グループ）

プログラム：・オリエンテーション

- ・グループ対話「選んだ鳥屋野潟のテーマについて知っていること」
- ・グループ対話「話し合った内容から、みんなでできることは？」
- ・ギャラリーウォーク
- ・ふりかえり
- ・まとめ・終了

授業の様子：



■講座の感想：

〔児童〕

- ・地域の人と鳥屋野潟のことを色々話せて良かったし上手く話せるようになった。
- ・鳥屋野潟を豊かにするためにはイベントに参加したりポスターを貼るなどの工夫をしたらいいと思いました。
- ・大人を加えて話し合いをすると、さまざまな視点から、いろんなアイデアが出るから、いいと思った！またやりたいです！
- ・色々な工夫を生かすと未来が豊かに過ごせるんじゃないかと思いました。

【ファシリテーター】

- ・子どもたちが鳥屋野潟について深く学んでいて、いろいろ教えてもらいました。子どもたちが話しながら考えが発展し、新しいアイデアが生まれていたようで、新しいひらめきの瞬間に立ち会えて、話すことって大切だなと思いました。
- ・子どもたちのエネルギー量がとてもすごいと思いました。小学5年生でも、お互いに尊敬し、受容し合う態度がよく育っていて、立派でした。
- ・子どもたちにとって、身近なテーマについて考えることで、地域への愛着が育まれていくことに気づきました。子どもと一緒に学ぶ機会があれば、どう自分ごととして捉えてもらえるかを意識したい。

【地域の人】

- ・子どもたちが子どもなりに鳥屋野潟をPRしたい！活かしたいという気持ちがうれしかった！
- ・前向きな発信が多く見られました。この気持ちを大切にしながら大人や周りの人たちが温かく見守っていくことが求められると思います。
- ・子どもたちがテーマは違っても、鳥屋野潟のためにできることを考えることがしれて良い機会となりました。
- ・知らないことを世代を超えて同じテーマで話すことは大切だと思いました。
- ・子どもたちの未来へのしっかりした考え、地域のことをしっかりと考えてくれることにびっくりです。

【教職員】

- ・日頃意見の表出を苦手としている児童が多いので、話し合いが成立するのか心配していたのですが、話し合いが進むにつれ、笑顔で自分の考えを書いたり、話したりする姿がたくさん見られました。
- ・話し合いの後、「とても楽しかった」「たくさん話ができた」「自分たちでは思いつかないようなアイデアを教えてもらえてうれしかった」といった声がありました。子どもたちの意見を否定せず、確認しながら聞いていただけたのだと思いました。
- ・えんたくんを使うことで物理的にも距離が近くなり、話し合いがしやすかったようです。
- ・未来についてのアイデアで、子ども達はいろいろなテーマが関係しあっているということに気付くことができました。

■山潟小学校 鳥屋野潟学習発表会の見学

2026年1月16日（金）に新潟市立山潟小学校にて、鳥屋野潟の学習発表会が実施された。

みらいず works では、児童の学びの見取りとして、発表会の見学をした。

また、こども若者ミーティングに参加したこども意見表明ファシリテーター養成講座受講者、地域の人に鳥屋野潟学習発表会の広報をメールにて実施した。

こども若者ミーティングの参加者が発表会を見学し、発表に関する感想や質問に児童が受け答えする様子が見られた。

【新潟市立白山小学校】

新潟市立白山小学校では、学校の計画変更によりこども若者ミーティングの実施なし。

しかし、2025年10月15日（水）に学校主催の全校授業「明日もまた行きたくなる白山小学校」の運営支援を実施した。みらいずworksは、学校長との打ち合わせ、当日のアイスブレイクや対話のまとめの支援を実施した。

■打ち合わせの実施（1回）

日 時：・2025年9月29日（月）学校長との打ち合わせ

■授業支援の実施

日 時：2025年10月15日（水）10:30-12:00

会 場：新潟市立白山小学校体育館

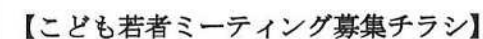
参 加 者数：新潟市立白山小学校全校児童・教職員・地域住民（計約230人）

授業の様子



講座周知のため、こども意見表明ファシリテーター養成講座とこども若者ミーティングの参加募集チラシを作成した。

周知のため、みらいず works 会員、新潟市中央区小中学校、養成講座会場、他事業の研修時に合計約 1500 部配布した。



周知のため、こども意見表明ファシリテーター養成講座受講者、新潟市立山潟小学校にデータ送付。
山潟コミュニティハウスに20部程度、チラシとして配布した。

成果と課題

【成果】

（１）ファシリテーター（大人）に関する成果

- ・ こども・若者に関わる教育、福祉、地域活動等の幅広い職種の参加があり、さらに継続して学びたいというリピーターの参加も見られたことから、本講座への関心の高まりが確認できた。
- ・ 実践の場として学校におけるファシリテーションを経験する機会を設けたことで、参加者が今後それぞれの所属先や活動現場において活用する具体的なイメージを持つことができた。
- ・ 他市町村や他機関から本事業全体に関する問い合わせが寄せられ、こどもの社会参画に向けた取り組みとして、先行事例として注目された。

（２）こども（児童）に関する成果

- ・ 地域の大人との対話を通じて、新たな気づきや学びが生まれ、興味関心がさらに高まった様子が見られた。
- ・ 大人との対話により「自分の意見を聞いてもらえた」「楽しかった」といった声が聞かれ、意見を表明する場をつくることができた。

（３）地域に関する成果

- ・ こどもたちが自分なりに地域のことを考えていることや、世代の違いによる新しい視点に気づくきっかけとなった。
- ・ 異なる世代の視点を地域づくりに取り入れていこうとする声が聞かれ、こどもたちとともに地域で何かを実現できそうだという前向きな機運の醸成につながった。

2. 課題

- ・ テーマの限定により対象校が限られ、学校ごとの個別調整に時間を要することとなった。
学校側からは、テーマが限定されていることで総合的な学習の時間をはじめ、教育活動との調整が難しいとの意見も寄せられた。
- ・ 学校の年間計画変更等により、実施が困難となるケースもあった。
- ・ 学校の教育活動と地域の資源・課題に即したテーマのすり合わせについては、調整の難しさが課題として残った。
- ・ こどもの声を聴く場づくりはできたが、こども・若者の社会参画意識を醸成するためには、こどもの意見を大人がどのように受け止め、どう活用していくかという次のフェーズが前提として必要である。

2 次年度以降の事業計画について

次年度の事業計画

（１）次年度の計画

- ・ 次年度は「こども意見表明ファシリテーター養成講座（注１）」を２回実施する予定とする。
実施方法については、同一プログラムを２回実施する、もしくは基礎編・応用編の２回構成とすることを検討する。

(注1) こども家庭庁に準じて、「こども意見ファシリテーター養成講座」に名称変更することも検討。

- ・「こども・若者ミーティング」については、学校以外での開催も検討したい。これは、学校の総合的な学習の時間や教育課程に関するリサーチや調整業務の負担が大きいことによるものである。また、養成講座受講者のそれぞれの活動現場や、コミュニティ協議会・自治会等からの要請により必要に応じたサポートを行う。

(2) 次年度以降の方向性

- ・子ども条例に記載されている、社会に参画する権利の保障は、他自治体においては行政施策として取り組まれている事例も多く、民間 NPO のみで実現できるものではない。
- ・行政・自治協・地域自治団体の事業や他機関、学校等幅広い連携先も視野に入れながら、持続可能な実施方法を引き続き模索していく。